

第1回ひろしま「山の日」県民の集い



第1回ひろしま「山の日」県民の集いの記録

- とき／2002年6月1日（土）・2日（日）
- ところ／東広島市龍王山・憩いの森一帯



はじめに

山に親しむ、山を楽しむ、山に学ぶ。これをテーマに『第1回 ひろしま「山の日」県民の集い』の行事を行うことができました。

今年の2月、東広島市とその周辺部で開かれた、森林と市民を結ぶ全国の集いにおいて、「山の日」の提案がなされ、それを私たちに受け止め実施したものです。

短い準備期間にもかかわらず、たくさんの方々に協力を申し出ていただきました。また、当日は、1,500人の方々にそれぞれの山を体感していただきました。ここに、その概要をご報告すると共に、ご参加そしてご支援・ご協力いただいた方々に厚くお礼申し上げます。

目次

事業のアウトライン	02
事業の実施状況	03
テーマトーク	06
報道資料	08
経過、規約、実行委員	09

事業のアウトライン



■主旨

いま、私たちの身近な自然である山や森林への関心が高まりつつあります。この2月、東広島市とその周辺地域で開催された「第7回森林と市民を結ぶ全国の集い」には全国各地はもとより、県内からも、たくさんの方々が参加され、過去最高の参加者を記録しました。まさしく山や森林への関心の高さの証しと、いえるでしょう。また、山梨県や滋賀県、和歌山県など山の国（県）では、数年前から「山の日」を設け、積極的に山にかかわる活動もはじまっています。

海の日があるように、山の日があってもいいのではないかと。私たちの身近にある山にもっと出かけようよ。山登りや観察や山の手入れや……。そして、そのきっかけとして「山の日」という提案が、先の全国の集いのまとめで行なわれました。

この提案を私たちに受け止め山に親しむ、山を楽しむ、山に学ぶをキーワードに『第1回ひろしま「山の日」県民の集い』を東広島市龍王山一帯で開催しました。

■日時

2002年6月1日(土)・2日(日)

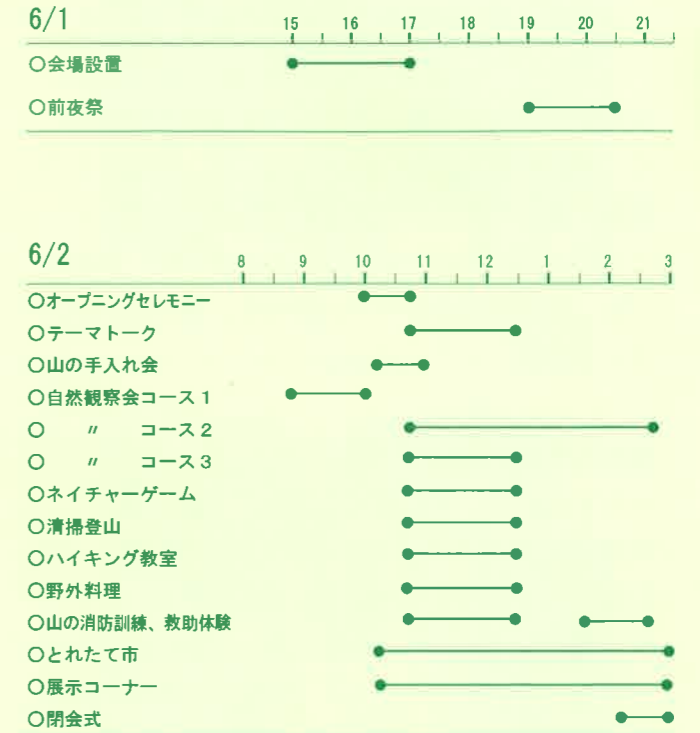
■場所

東広島市 龍王山憩いの森一帯

■テーマ

- 山に親しむ
- 山を楽しむ
- 山に学ぶ

■プログラム・全体タイムテーブル



■主催

第1回ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会

■後援

広島県、広島県教育委員会、広島市、東広島市、東広島市教育委員会、(社)国土緑化推進機構、(社)広島県みどり推進機構、賀茂広域行政組合、賀茂地方森林組合、西条・山と水の環境機構、(財)東光会、中国新聞社、JA広島中央、(社)日本山岳会広島支部、ひろしま緑づくりインフォメーションセンター、広島県山岳連盟、広島県勤労者山岳連盟

■協賛・助成

国際山岳年協賛事業
西条・山と水の基金助成事業



■概況

参加団体 30、参加者 1,500 名、盛会となった。テーマトークのゲストとして会場に駆けつけた江本嘉伸さん（国際山岳年日本委員会事務局長）は「自然をどう人類に残せるか。私たちにはその資格と責任がある」と開会式で呼びかけた。オープニングセレモニーのあと、山に親しむ、山を楽しむ、山に学ぶのテーマに基づき、多彩なプログラムが展開された。



キャンプファイヤー。火を囲んで。

■参加者の状況

6月1日（土）前夜祭 70人

6月2日（日）ひろしま「山の日」県民の集い 約1,500人（写生大会 300人、山の手入れ 70人、自然観察会 200人、清掃登山・ハイキング教室 170人、ネイチャーゲーム 30人、クラフト教室 100人他）



多くの参加者を前に、前垣委員長の開会宣言。

■行事

山に親しむ、山を楽しむ、山を学ぶをテーマに、いろいろなプログラムが行われ、小さな子どもたちから大人まで、山を体感した。

①前夜祭

オートキャンプ場ファイヤーサークルにて開催。約 70 人参加。憩いの森で伐った薪の火はともあたたかい。火を囲んで、はじめて出会う仲間たちが、歌に、ゲームに、踊りに興じた。東広島山の会のメンバーによる広島県内の山 25ヶ所を織り込んだ「故郷広島山」の歌唱指導があり、ムードは最高潮になった。

②オープニングセレモニー

前垣実行委員長が「上流の山をきれいにすることが川や水を大切にすることにつながる。山を私たちの手でとりもどそう」とあいさつ。次いで、「山の日」によせてと題して、江本嘉伸氏（国際山岳年日本委員会事務局長）が、前日 15 時間 20 分も走り抜いた「しまなみ 100 キロマラソン」の体験談も織り込みながら自然保全、身近な山へ親しむことの必要性を訴えた。東広島山の会 17 名による「故郷 広島山」や、木原実行さんがデザインした、ひろしま「山の日」シンボルフラッグも披露された。司会進行はRCC山原玲子（日本野鳥の会広島支部会員）さん。



江本さんのテーマトーク。



清掃登山・ハイキング教室プログラム参加の人たち。

③各プログラム

写生大会、山の手入れ、自然観察会、清掃登山・ハイキング教室、ネイチャーゲーム、クラフト教室、野外料理教室、山の消防訓練・体感、救急法講座、こどもパラグライダー体験教室などが各団体により行われた。また会場では、木材の展示、地球温暖化対策や東広島の水に関する展示コーナー、消防機器の展示、野菜のとれたて市、植木市なども開かれ、家族づれや小さな子どもたちも楽しんでいた。



山の手入れの前の事前講習。



木材の展示コーナー。



ひろしま「山の日」のシンボルフラッグ。



小さな子どもたちの姿も目立って。クラフト教室。



地元でとれた野菜コーナー・とれたて市。



ステージでは救急法講習会も開かれた。



ヘリコプターも出動しての山の防災訓練。



広大の人たちへ地球温暖化について講座をする町さん。

④閉会式

中越信和アドバイザー（広島大学）が「広島として、まずは責任をはたせたのではないか。成功だったと思う。継続される行事にしたい」と締めくくった。次いで、次回開催地の吉和村・森本竹一氏（前・吉和村村長）へ「ひろしま山の日」のフラッグが手渡された。



あいさつする次回開催地の森本竹一さん。

「山の日」によせて

お話：江本嘉伸さん（国際山岳年日本委員会事務局長）

私は、昨日「しまなみ 100 キロマラソン」に参加し、走ってきた。

午前 5 時、福山城をスタートし、午後 8 時 20 分、今治城にゴールした。この間 15 時間 20 分、歩数でいうと 13 万歩の距離だった。

今日、日本は経済成長の中で山のことを忘れていく。

一方、10 年前になるが、リオデジャネイロの「世界環境サミット」で、アジェンダ 21 が制定された。これは 21 世紀の地球環境に関する問題を掲げたもので、13 章には「山」をとりあげている。山と川は一心同体だから「山と川」のことであるが、森を削り取られ、川を汚染されている現状をどうにかしようとして世界中で考える約束をした。そして 10 年後にあたる 2002 年の今年を「国際山岳年」に定めた。

「山の年」であるが、「自然の年」とも言える。



江本嘉伸さんの横顔

1940 年横浜市生まれ。東京外国語大学ロシア語科卒。ジャーナリスト。地平線会議代表世話人。東京外国語大学山岳会会員、日本山岳会会員。日本ヒマラヤ協会会員。日本モンゴル学会会員。元オペル冒険大賞選考委員。元読売新聞編集委員。南北両側からのエヴェレスト（チョモランマ）登山取材、北極、中央アジア、チベット横断、黄河源流探検、モンゴル遊牧草原取材、チンギス・ハーンの陵墓を探る「日本モンゴル学術調査」などの取材、調査にあたる。モンゴルには 1987 年以後 20 回以上訪れ、1994 年、モンゴルジャーナリスト同盟から外国人としてはじめて「最優秀ジャーナリスト」に選ばれる。

ここ龍王山を見ると、緑が豊富で羨ましい。私の住む四谷は、寺が多くて緑が豊かだったが、最近はそうでもなくなった。しかもそれを止める手だてもない。従って世界で取り決めたこの運動は、とりわけ日本にとっては大事なことだと言えよう。

各国に国内委員会をつくり、日本委員会では田部井淳子さんが委員長、私が事務局長となり、山を結んで広いつながりをつくることになった。

1 年で終わらせない方法はないか。「山の日」づくりはこうした背景で考えられていることを知って欲しい。

しまなみ海道を走っていて、「山の日」は市民ひとりひとりで高めていこうという気持ちが一層強まった。山の好きな政治家がアプローチしてくるかもしれないが、私たちひとりひとりの盛り上がり何と言っても大切だ。

応援するからスタートしてほしい。私たちは法律を変えていくのだから、県単位で進めてもらいつつ、やがて全国的にまとめさせてもらう。

私は 40 歳でランニングのトレーニングを開始した。人間は生き物だから、動物になるという想いである。私はモンゴル民族と暮らしたことがあるが、そこでも一芸があると認めてくれるものだ。現地では 4 歳のころから子供たちが馬に乗れるようになっている。

「山の日」は「ゆとり教育」になるのではないかな。今はおとなが何かというとすぐ「ノー」と止めてしまう傾向にある。丹沢の増水でキャンプ中の人たちが流されるいたましい事件があった。ワッと鉄砲水が出ることもある。他人事と思わずに、私たちは日頃から生き物としての感覚を身につけておきたい。

だから私も意固地なマラソンじいさんにならずに、良い意味で年をとらないためにも、文化的に

梅雨の直後は山登りに最適な好天気が続くことが多く、登山家はこの時期を梅雨明け十日」といって、若狭や尾根で体験する緊張感と醍醐味を求め、あるいは木立の中を散策する安らぎを味わうために、それぞれのペースで山へと出掛けている。

種村 重明 広島県山岳連盟会長



国際山岳年によせて

山岳が自然の豊かさを超え、環境で進んでいる。こへの懸念がある。登山家もだれしも強感を感じている。山岳年を、市民一人ひとりが、社会全体が地球環境保全について深刻に受け止める契機にしたい。

山は乾いた現代人潤す

自ら安全確保を心掛ける自然の美しさを厳しく学ぶ。山岳文化や遺産、歴史を保存する。山岳年を、市民一人ひとりが、社会全体が地球環境保全について深刻に受け止める契機にしたい。

論語に「知者は水を養ひ、仁者は山を養ひ」とある。親愛の情に満ちて心安らかな者は落ち着いた静かな山を好み、物欲に動ざれないという意味である。また、登山家のジャン・フランコは「山は根拠や動機、沈黙、頑張り、学校」と言っている。最近では暗やみの中から眺める

中国新聞 (02.07.14 朝刊)

県民「山の日」初開催

東広島 清掃登山などに1500人



間伐作業に汗を流す参加者

第1回ひろしま「山の日」と龍王山一帯であった。日県民の集いが、「山に親しむ、山を愛し、東広島県の緑の森公園(むつ山)に学ぶ」をテーマに、約千五百人が多彩な催しを体験した。

中国新聞 (02.06.03 朝刊)



「山の水が川を流れ、海へと続く。きれいな水を守るためにも、山の手入れは欠かせない」と、ひろしま「山の日」県民の集い実行

委の前垣寿男委員長(55)。東広島市の龍王山一帯で初めて開いた集いは、約1500人の参加者でにぎわった。

地元の西条酒造組合理事長。きれいな水と米で酒造りしてきただけに、自然の恵みへの感謝の気持ちは強い。組合が基金を提

森林保護活動広げよう

供し昨年「西条・山と水の環境機構」が発足、酒蔵の従業員らは市民と連携し、龍王山の間伐作業に取り組む。自身は今年2月に同市であった「森林と市民をつなぐ全国

の集い」にパネリストとして参加、「山の日」の制定を提案した。実質2カ月の準備期間で今回のイベントを実現。「全国の集いで沸き上がった森林ボランティアの熱い思いがあったからできた」と振り返り、「各地の団体が交流、情報交換し、山や森林を守る大きなうねりにつながりたい」と誓う。

中国新聞 (02.06.04 朝刊)

咀嚼していきたいと思っている。

「国際山岳年」は良いきっかけを日本に与えてくれたと思う。

ヒマラヤ、アマゾンの支援をしようということではなく、まず自分たちの目の前の山について、自然について考えていきたい。

広島県では、恐羅漢山が1346メートルの標高と聞いたが、ポーランドの山は1400メートルの高さでしかない。しかし一流アルピニストがそこから出ている。低さを自分のものとして展開しているからだと思う。

私は18歳の大学生時代から、山にいそしんだ。今も山のことが一番大事になっている。山を理解することはいろいろなことに通じると思う。一人占めして良いはずがない。

私たちは、山が良いものであることを知っている。これからは広く世間の人に、どうしてこれからの人類に残していくかを考える資格と責任があると思う。

昨日は脱水との戦いの一日だった。水を頭にかけて、ものが食べられないから飲み物だけを摂取して走った。それでも、瀬戸内海は山と海の自然がすばらしいと感じつつ走った。ゼーゼー言いつつも、それが味わえてありがたいと思った。

私は良い形で広島県のこの集いを応援するので、ぜひとも継続してほしい。そしてこの「山の日」を文化に結びつけてほしい。皆さんひとりひとりにその哲学をもっていただきたいと思っている。

(記 国枝忠幹・日本山岳会広島支部)

■経過

- 02.02.11 東広島市等で開かれた第7回森林と市民を結ぶ全国の集いにおいて「山の日」の提案がされる。
- 02.03.15～ ひろしま「山の日」県民の集いの実行委員会を公募。39名が集まる。
- 02.04.06 準備委員会開催。基本的な方向を検討。
- 02.04.20 第1回委員会開催。基本方向の検討。規約承認、役員等の決定。
- 02.04.20～ 関係機関、団体への後援・協力依頼。広報活動開始。
- 02.05.09 第2回委員会開催。実施内容の検討、決定。
- 02.05.25 第3回委員会開催。龍王山・憩いの森にて最終確認。
- 02.06.15 開催機関へ事業報告。
- 02.08.31 事業の記録集、編集・発行。

■委員会規約

第1回ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会

規 約

- (名称)
第1条 本会は、第1回ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会（以下「実行委員会」という。）と称する。
- (目的)
第2条 実行委員会は、山に親しむ、山を楽しむ、山に学ぶをキーワードに、第1回ひろしま「山の日」県民の集い及び関連事業を実施することを目的とする。
- (構成)
第3条 実行委員会は、主催関係者、後援、協賛関係者並びにその他本会の目的に賛同するもので構成する。
- (役員)
第4条 実行委員会に次の役員を置く。
・相談役、アドバイザー 若干名
・委員長 1名
・副委員長 3名
・委員 賛同者
・事務局長 1名
- (役員の仕事)
第5条 委員長は、実行委員を代表し、会務を総括する。
2. 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故のある時は、その職務を代行する。
3. 委員は各々の持ち味を生かし、事業の企画、実施にむけ職務を遂行する。
4. 事務局長は事業を円滑に推進するために、関係者と協力のもと職務を遂行する。

- (役員等の選任)
第6条 相談役、アドバイザー・委員長・副委員長・事務局長は、委員等の互選とする。
- (役員等の任期)
第7条 役員は任期は本事業が終了し、次回の実行委員会が設立されるまでとする。
- (会議)
第8条 実行委員会の会議は、必要に応じ委員長が召集する。
2. 会議の議事は、委員長が議事となり、進行する。
- (経費)
第9条 実行委員会の事業に必要な経費は、各参加団体の事業費、協賛金、参加費及びその他収入をもって充てる。
- (雑則)
第10条 この規約に定めるもののほか、実行委員会に関し必要な事項は、委員会にて定める。

付 則

- (施行期日)
1. この規約は平成14年4月20日から施行する。
- (失効)
2. この規約は、本事業が終了し、次回実行委員会が設立されたときにその効力を失う。

■シンボルマーク



山と人との調和をモチーフにデザイン開発。
基本カラーはエコ・グリーン。
デザインは木原実行さん。

■実行委員

○相談役・アドバイザー

- 浅野敏久 広島エコ・ミュージアム研究会／広島大学総合科学部
- 荒川純太郎 ひろしま人と樹の会 会長
- 佐々木 健 広島国際学院大学工学部 教授
- 中越信和 広島大学総合科学部 教授

○実行委員

実行委員長

- 前垣壽男 西条酒造組合 理事長

副実行委員長

- 瀬川千代子 ひろしま緑づくりリフォーメーションセンター 代表
- 種村重明 広島県山岳連盟 会長
- 森本竹一 (財)もみのき森林公園協会 理事長 ※次回開催予定地

委員

- 飯尾千絵 エコロジー研究会ひろしま
- 池田充美 賀茂広域行政組合消防本部 消防司令長
- 梅田 斉 もみのき森林公園 支配人
- 宇山茂之 広島県山岳連盟 普及部(自然環境担当チーフ)
- 江川和禱 グリーンサポート連絡会
- 奥田 實 グリーンサポート連絡会 会長
- 兼森志郎 (社)日本山岳会広島支部
- 北口成人 愛する熱帯多雨林のために再生紙で名刺を作る会 幹事

- 木原実行 ランパー (アウトドアショップ)
- 国枝志幹 (社)日本山岳会広島支部
- 佐々木弘磨 株式会社パワーズ (アウトドアショップ)
- 笹山徳治 さるかに共和国 草刈り十字軍
- 佐竹信夫 グリーンサポート連絡会
- 重森春三 広島県森林インストラクター連絡協議会
- 善入幸雄 東広島市自然研究会
- 高田浩平 東広島青年会議所
- 高見 京 憩いの森友の会 (代表 大野 涉)
- 中塚秀男 広島県山岳連盟 普及部 (自然環境担当)
- 西田信雄 四季の森
- 林田和枝 エコ・レディース 代表
- 平本勝吉 (社)広島県みどり推進機構
- 福永やす子 東広島山の会会長
- 星野公昭 さるかに共和国 草刈り十字軍
- 藤井加寿子 さるかに共和国 草刈り十字軍
- 正木 完 (社)広島県森林協会
- 正本 大 エコロジー研究会ひろしま 幹事
- 町三恵子 広島県東広島地域事務所環境管理課
- 村田静治 東広島市産業部農林振興課
- 安井耕造 広島県林業団体連絡協議会
- 山田雅昭 広島県山岳連盟 理事長
- 六重部篤志 広島自然観察会 (広島県自然観察指導員連絡会)

事務局長

- 畝崎辰登 西条・山と水の環境機構

(50音順)

- 事務局：〒730-8620 広島市中区紙屋町2-1-18
(株)デオデオ内
ひろしま緑づくりリフォーメーションセンター
TEL (082) 240-3420 FAX (082) 240-3426

■協力者、団体等

- 山の手入れ／ひろしま人と樹の会、広島県森林インストラクター連絡協議会、グリーンサポート連絡会、四季の森、エコロジー研究会、愛する熱帯多雨林のために再生紙で名刺を作る会、日本山岳会広島支部、賀茂地方森林組合
- 自然観察会／広島自然観察会、東広島市自然研究会、広島大学中越・井鷲研究室
- ネイチャーゲーム／広島エコ・ミュージアム研究会、広島県ネイチャーゲーム協会
- 清掃登山・ハイキング教室／広島県山岳連盟普及部
- 野外料理コーナー／パワーズ、ランパー
- 山の消防体験・救助訓練／賀茂広域行政組合消防本部、東広島消防団、さるかに共和国、広島県山岳連盟指導部
- クラフト教室／広島県森林インストラクター連絡協議会、芸北町自然保護レンジャー
- とれたて市／JA広島中央、東光造園
- 展示コーナー／広島県東広島地域事務所環境管理課、東広島市環境衛生課、広島自然観察会、賀茂地方広域行政組合消防本部、四季の会
- 写生大会／財団法人東光会
- 司会、進行／山原玲子 (日本野鳥の会会員、中国放送)
- 駐車場整理／東広島青年会議所
- 歌唱指導／東広島山の会

たくさんの方々のご協力・ご支援により『第1回ひろしま「山の日」県民の集い』を行うことができました。心よりお礼申し上げます。



この事業は、西条・山と水の基金の助成を受け、実施しました。

第1回ひろしま「山の日」県民の集いの記録

- 発行日 2002年8月31日
- 発行 第1回ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会
- 編集 株式会社 富士パブリックス
- 印刷 株式会社 東光印刷
- 事務局 〒730-8620
広島市中区紙屋町2-1-18 (株)デオデオ内
ひろしま緑づくりリフォーメーションセンター
TEL (082) 240-3420 FAX (082) 240-3426